徳泉寺報（とくせんじほう）

No.７４

発行
令和５年１２月
発行元 徳 泉 寺
仙台市宮城野区
榴岡 3-10-3
(022)297-4248
tokusenji.sendai@gmail.com

ホームページ
tokusenji-sendai.com

Instagram
tokusenji.sendai
TOKUSENJI.SENDAI

大海に出て足元を見つめる

往く年を振り返り　来る年に思いを馳せて

今年も残すところあと数日。二〇二三年(令和五年)はどんな一年だったでしょうか。日本社会においては、コロナウイルスの扱いが5類になったことを受けて、新しい行動様式を取り入れながらも、他の人との気軽な交流が少しずつ緩和された一年でした。また、世界情勢を見てみるとあちこちで戦乱が起こり、不安が渦を巻くような一年だったようにも思います。

さて、徳泉寺にとってはどんな一年だったでしょうか。毎年恒例になりました、住職・前住職のインタビューから振り返ってみましょう。

（住職＝関口真爾　前住職＝関口秀和）

今年はどんな出来事がありましたか

住職　二月にみやぎ生協さんと開催した「絵本キャラバン」がご縁で会報誌に文章を連載してもらう機会をいただきました。たくさんの人の目に触れて反響をいただきました。後半には前住職夫妻である両親が旅行で長期不在になりバタバタしましたが、日頃地域に出て行けるのも、こども会ができるのも、両親がいるおかげだとしみじみわかりました。支えてくださる方々にも恵まれて有り難い一年でした。

また、コロナの扱いが5類になっていろいろなことを元に戻そうという働きかけが大変でした。震災の時もそうでしたが元に戻す、というよりは新しいしくみを作っていく、という連続でした。

前住職　今年は旅行に行く機会に恵まれ、約3か月半かけて船で地球を一周しました。５６０００ｋｍ、１９か国２３の港に立ち寄って、世界を見てきました。島影ひとつ、船ひとつ見えない海上で何日も過ごし、本当に地球の大部分は海なのだなあと実感しました。また、船の中でいろんな人と言葉を交わしたり食事を一緒に取ったりして、当たり前ですがいろんな人がいるなあと、そしてどこまでいってもやっぱり人間はどうしても自分中心になるんだなと、そんなことを感じました。

特に印象に残った国はどこでしたか。

前住職　アイスランドが印象的でした。小さな国で国土の３０％が氷河、活火山は２００もある地熱発電の国です。ユーラシア大陸とアメリカ大陸のぶつかった谷間が国立公園になっており、穏やかな牧草地帯が続く場所が一転して何もない岩肌だらけの土地になりどこまでも広がっていく、その変換点がすごかったです。北の果てにこういう国があるんだな、と自然の壮大さを感じました。人の作った造形物も素晴らしいものがたくさんありましたが自然のすごさのようなものが強く印象に残っています。

本物を見てきたからこその感想ですね。また皆さんにぜひ詳しくお話しください。さて来年はどんな年にしたいですか。

住職　今年は後半、同朋会などで発言いただいたり質問が出たりとみなさんで一緒に考える機会ができました。来年はこれをもっと充実させて双方向での聞法会をしていけたらいいなと思います。

前住職　いろんな経験をしましたが、旅行中は一人の人間としての日常生活ができないことにもどかしさを感じ、「本当に生きている」という気がしませんでした。私はやっぱり社会との関わりの中で、ここ徳泉寺で役に立つ仕事をさせてもらいたいと思います。

本年も大変お世話になりありがとうございました。来年もみなさまと共にある徳泉寺でありたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。